

施設整備予定地の第 2 次選定について

1 候補地のリストアップ（10 か所程度）の検討結果

(1) 候補地の抽出

「第 1 次選定 立地回避図（ネガティブマップ）」に基づき、次の条件により抽出した候補地は、表 1 および図 1 のとおり 21 か所となる。

○ 抽出条件

- ① 国道，道道および都市計画道路（整備予定を含む）から概ね 2 km 以内の地域
- ② 市有地（未利用地（平成 28 年 9 月末現在））
- ③ 民有地等（国，道，民間の未利用地（平成 28 年 9 月末現在））

※ 公開用資料のため，文言等の一部について削除および変更をしています。

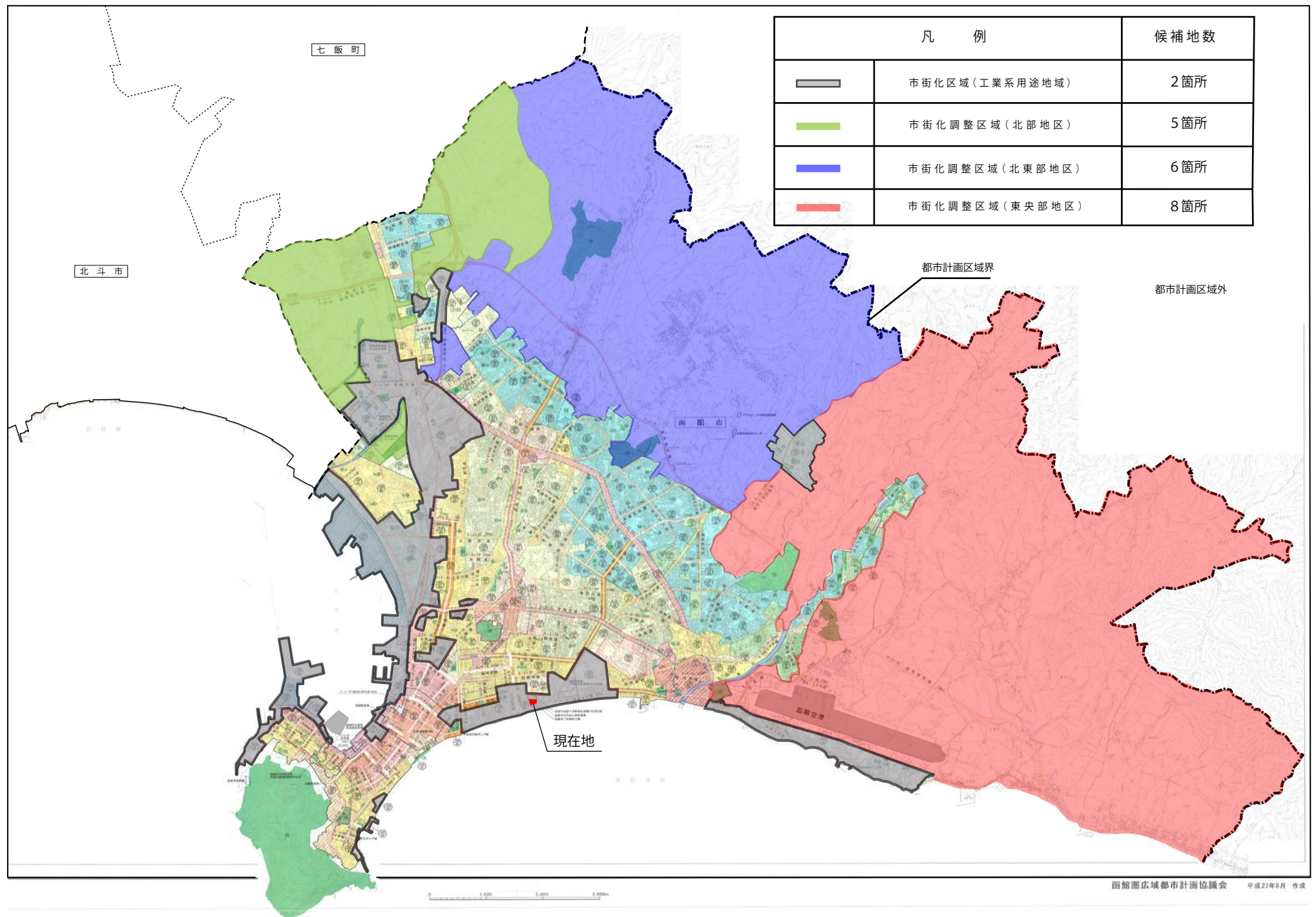
表 1 抽出候補地一覧

候補地	所在地	候補地面積 (m ²)	候補地概要	備考
①		約28,000	市街化区域 (工業系用途地域), 民有地	
②		約18,000	市街化区域 (工業系用途地域), 市有地	
③		約33,000	市街化調整区域, 民有地	北部地区
④		約13,000	市街化調整区域, 民有地	北部地区
⑤		約19,000	市街化調整区域, 民有地	北部地区
⑥		約17,000	市街化調整区域, 民有地	北部地区
⑦		約23,000	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑧		約17,000	市街化調整区域, 民有地	北部地区
⑨		約20,000	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑩		約22,000	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑪		約17,000	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑫		約26,000	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑬		約21,000	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑭		約27,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑮		約22,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑯		約17,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑰		約12,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑱		約29,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑲		約20,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑳		約35,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
㉑		約39,000	市街化調整区域, 民有地	東央部地区

候補地	所在地	候補地面積 (m ²)	候補地概要	備考
現在地	日乃出町	約9,200	市街化区域 (準工業地域), 現施設設置地	

※ 備考欄の地区区分は、「函館市都市計画マスタープラン (平成23年度作成)」による。

図 1 第 2 次選定 候補地の抽出



(2) 候補地の除外

抽出した候補地から次の除外要件を考慮した検討結果は、表2のとおりである。

○ 除外要件

① 地形，地質

- ・地形 土地の高低差が20m以上
- ・地質 泥炭等の軟弱地盤

② 周知の埋蔵文化財包蔵地（近接含む）

(3) 候補地のリストアップ

以上により，リストアップする候補地は，①～⑤，⑨～⑫，⑭，⑯，⑳，㉑の計13か所および現在地とする。

各候補地は，表3および図2のとおりである。

表2 候補地除外要件比較

候補地	所在地	面積 (m ²)	区域区分	地形	地質	埋蔵文化財包蔵地	総括
①		約28,000	工業系用途地域	平坦である。	○ 第四紀沖積世沖積堆積物で主に砂、礫、粘土地盤となっている。ただし、現状は一部埋立された地域である。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
②		約18,000	工業系用途地域	埋立地であり平坦である。	○ 埋立された地域である。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
③		約33,000	市街化調整区域	概ね平坦である。	○ 第四紀沖積世沖積堆積物で主に砂、礫、粘土地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
④		約39,000	市街化調整区域	概ね平坦である。	○ 第四紀沖積世沖積堆積物で主に砂、礫、粘土地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑤		約19,000	市街化調整区域	概ね平坦である。	○ 新第三紀中新世～鮮新世峠下火山砕屑岩類で主に集塊岩、角礫凝灰岩、凝灰岩、溶岩となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑥		約17,000	市街化調整区域	傾斜地であり、候補地内で20m程度の高低差がある。	× 新第三紀中新世～鮮新世峠下火山砕屑岩類で主に集塊岩、角礫凝灰岩、凝灰岩、溶岩となっている。	○ 包蔵地である。	× ×
⑦		約23,000	市街化調整区域	傾斜地であり、候補地内で20m程度の高低差がある。	× 第四紀現世扇状地堆積物で主に礫、砂地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ×
⑧		約17,000	市街化調整区域	河川に隣接した傾斜地であり、候補地内で30m程度の高低差がある。	× 第四紀現世扇状地堆積物で主に礫、砂地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ×
⑨		約20,000	市街化調整区域	一部沢形状を成しており、候補地内で10m程度の高低差がある。	○ 第四紀洪積世第2段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑩		約22,000	市街化調整区域	概ね平坦である。	○ 第四紀洪積世第2段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑪		約17,000	市街化調整区域	河川に向かっている傾斜地であり、候補地内で10m程度の高低差がある。	○ 第四紀洪積世第2段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑫		約26,000	市街化調整区域	概ね平坦である。	○ 第四紀洪積世第2段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑬		約21,000	市街化調整区域	尾根部であり、候補地内で20m程度の高低差がある。	× 第四紀洪積世第2段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ×
⑭		約27,000	市街化調整区域	河川に向かっている傾斜地であり、候補地内で10m程度の高低差がある。	○ 第四紀沖積世現河床堆積物、海浜堆積物で主に砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑮		約22,000	市街化調整区域	河川に向かっている傾斜地であり、候補地内で20m程度の高低差がある。	× 新第三紀鮮新世で主に石英粗面岩となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ×
⑯		約17,000	市街化調整区域	概ね平坦である。	○ 第四紀沖積世現河床堆積物・海浜堆積物で主に砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
⑰		約12,000	市街化調整区域	河川に沿った緩やかな傾斜地であり、候補地内で10m程度の高低差がある。	○ 第四紀沖積世現河床堆積物・海浜堆積物で主に砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地に近接している。	× ×
⑱		約29,000	市街化調整区域	傾斜地であり、候補地内で20m程度の高低差がある。	× 第四紀洪積世第3段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ×
⑲		約20,000	市街化調整区域	河川に向かっている傾斜地であり、候補地内で20m程度の高低差がある。	× 第四紀洪積世第3段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ×
⑳		約35,000	市街化調整区域	傾斜地であり、候補地内で10m程度の高低差がある。	○ 第四紀洪積世第3段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○
㉑		約39,000	市街化調整区域	傾斜地であり、候補地内で10m程度の高低差がある。	○ 第四紀洪積世第3段丘堆積物で主に粘土、砂、礫地盤となっている。	○ 包蔵地ではない。	○ ○

表3 リストアップ候補地一覧

候補地	所在地	候補地面積 (m ²)	候補地概要	備考
①		約28,000 (平坦)	工業系用途地域, 民有地	
②		約18,000 (平坦)	工業系用途地域, 市有地	
③		約33,000 (平坦)	市街化調整区域, 民有地	北部地区
④		約39,000 (平坦)	市街化調整区域, 民有地	北部地区
⑤		約19,000 (平坦)	市街化調整区域, 民有地	北部地区
⑨		約20,000 (一部沢形状, 高低差10m程度)	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑩		約22,000 (平坦)	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑪		約17,000 (傾斜地, 高低差10m程度)	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑫		約26,000 (平坦)	市街化調整区域, 民有地	北東部地区
⑭		約27,000 (傾斜地, 高低差10m程度)	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑯		約17,000 (平坦)	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
⑳		約35,000 (傾斜地, 高低差10m程度)	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
㉑		約39,000 (傾斜地, 高低差10m程度)	市街化調整区域, 民有地	東央部地区
現在地	日乃出町	約9,200 (平坦)	準工業地域, 現施設設置地	

※ 備考欄の地域区分は、「函館市都市計画マスタープラン（平成23年度作成）」による。

図2 第2次選定候補地のリストアップ

